

発刊に当たり

北海道特別支援教育振興協議会長 大石 正行
(鶴居村長)

市町村教育委員会並びに各学校の管理職の皆様には、日頃から、北海道における特別支援教育の振興に御尽力いただいておりますことに、心から敬意を表します。

当協議会では、市町村の支援員等を対象とした研修会を実施するほか、昨年度は、「小・中学校の管理職のための特別支援教育ハンドブック」を北海道教育委員会とともに作成するなど、様々な取組を行っているところです。

近年は、少子化により子どもたちが減少する中、特別支援学校や特別支援学級に在籍する子ども、通級による指導を受ける子どもや通常の学級に在籍する発達障がいを含む特別な教育的支援を必要とする子どもが増加し続けており、子どもの学びの場の検討を行ううえで市町村教育委員会が設置している教育支援委員会や各学校の校内委員会の役割はより一層重要なものとなっています。

こうしたことから、今年度は教育支援委員会と校内委員会の機能充実を図るためのハンドブックを発刊し、保護者の意向を可能な限り尊重するための手立てや、柔軟に在籍を変更するための考え方などについて、市町村教育委員会や各学校に広く周知することとしました。

インクルーシブ教育システムの充実を図るためには、子どもの自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる就学先となる学校や学びの場について、教育支援委員会や校内委員会で検討を行うことが重要です。

本ハンドブックの内容を子どもの教育支援の参考にし、支援を必要とする子どもとその保護者の笑顔につなげていただくことを願っています。

私ども北海道特別支援教育振興協議会としましても、引き続き、市町村相互の連携はもとより、国に対して適切な施策の実施を働き掛けるなどして、特別支援教育を必要とする子どもの自立と社会参加を見据えた実践がより一層充実したものとなるよう市町村教育委員会や各学校の取組をしっかりサポートしてまいります。

結びに、本ハンドブックを発刊するにあたり、御尽力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本道の特別支援教育の更なる充実を御祈念申し上げ、御挨拶いたします。

子どもの「よさ」や「可能性」を最大限引き出すために

北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明

本ハンドブックを手にとっていただいている関係の皆様には、日頃から特別な教育的支援を必要とする子どもへの指導や支援の充実に向け、御尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

特別支援教育を必要とする子どもが増加する中、北海道教育委員会では「特別支援教育に関する基本方針」において、適切な就学先決定に向けた支援を施策の一つに位置付け、取組を推進しているところです。

障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限り同じ場で共に学ぶこと、それぞれの子どもが充実感、達成感を感じながら生きる力を身に付けることを本質的な視点とするインクルーシブ教育システムの充実を図るためには、行政、学校、保護者が三位一体となって取り組むことが重要と考えています。

特別な教育的支援を必要とする子どもの「よさ」や「可能性」を最大限引き出すためには、これから在籍するであろう学びの場や現在在籍している学びの場における分かりやすい授業や温かい学級づくり、合理的配慮の提供等が大前提となりますが、支援を必要とする子どもが通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場の中で、その時点での教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる学びの場で学ぶことが重要であると考えます。

こうした認識のもと、本ハンドブックでは、就学先を決定する市町村教育委員会や就学決定に向け教育委員会に助言を行う教育支援委員会、各学校に設置されている校内委員会の機能充実に向け確認・留意いただきたい内容をまとめたところです。

市町村教育委員会におかれましては、貴委員会の取組状況を御確認いただくとともに、教育支援委員会や校内委員会を行う際には、本ハンドブックを皆様の傍らに置くなど、二つの委員会の充実を図って頂けると幸いです。

結びに、発刊に当たり多大なる御支援を賜りました北海道特別支援教育振興協議会、快く事例を提供いただきました妹背牛町、今金町、釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町の各教育委員会、内容構成に御助言いただきました北海道教育支援委員会並びに広域特別支援連携協議会の構成員の皆様にお礼申し上げます。

関係の皆様におかれましては、引き続き特別な教育的支援を必要とする子どもの「よさ」や「可能性」を最大限引き出す取組の充実をお願いし、御挨拶とします。

目 次

巻頭言

第1章 保護者の意向を可能な限り尊重するために

- | | |
|------------------------------|--------|
| (1) 乳幼児健康診査等の活用 | ・・・ 1 |
| (2) 保健・福祉部局との連携 | ・・・ 2 |
| (3) 行動観察の重要性 | ・・・ 3 |
| (4) 保護者との面談 | ・・・ 5 |
| (5) 学びの場の説明 | ・・・ 6 |
| (6) 教育支援委員会で審議を行うに当たって | |
| ① 教育支援委員会の役割等 | ・・・ 9 |
| ② 就学先と学びの場の検討 | ・・・ 11 |
| ③ 合理的配慮にかかわる協議 | ・・・ 13 |
| 〔参考〕事前の相談・支援を充実させるためのチェックリスト | ・・・ 15 |

第2章 柔軟に在籍を変更するために

- | | |
|-------------------------|--------|
| (1) 校内委員会の役割 | ・・・ 16 |
| (2) 校内委員会の1年間のスケジュール（例） | ・・・ 18 |
| (3) 校内委員会での学びの場の見直し | ・・・ 19 |

巻末資料 ・・・ 23

ハンドブックの作成に当たり参考とした資料 ・・・ 31

執筆者等

- ・ 文中の「障害」の表記について、引用したものは、原文のままとしています。
 - ・ 原文を除き、乳幼児が含まれる文脈では「子ども」と表記しています。
 - ・ 文中の二次元コードは予告なく、リンクを外す場合があります。

このハンドブックは、北海道立特別支援教育センターのWebページからダウンロードすることができます。

PDF版は、二次元コードをクリックするとリンク先を閲覧できるようになっていますので、是非御活用ください。



端末で閲覧する場合は、二次元コードをクリックするとリンク先へアクセス